

デザイン学学位プログラム (博士前期課程)

Master's Program in Design

授与する学位の名称	修士(デザイン学) [Master of Design]	
人材養成目的	人のこころをより良い状態にする製品や環境を生み出す実践的な力を修得し、人と人のつながりを作り明るく充実したものとする社会システムの創造を目指し、豊かで建設的な地域や社会を育み維持再生するための創造力を活用できる、国際的トップリーダーの資質を持った高度専門職業人を養成する。	
養成する人材像	横断的・実践的かつ国際的な学修を実践し、地域や文化の壁を越えた問題解決策を提案する意欲と、成果を生み出す粘り強さを持ち、目利き力(課題抽出能力)、突破力(計画立案能力、論理的説得力)および専門性に裏付けられた任務完結力を備えた人材。	
修了後の進路	デザイナー、建築家、企業などにおける企画開発者、エンタテインメント産業のデザイナー・アーティスト、デザイン理論や実践を行う研究機関の研究者、デザインコンサルタント、博士後期課程への進学等	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学基礎論に加えて、デザイン学特別演習 1、感性情報学特講、建築計画論特講、作品制作・発表、デザインコンペなどへの応募、修士論文作成、学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導する研究倫理に加えてプロジェクト演習、インターンシップ、学会などにおける研究会などの運営、達成度自己点検、デザインコンペ等への応募、共同プロジェクトの運営など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	プロジェクト演習、インターンシップ、大学を開くデザインプロデュース、学会などにおける研究会などの運営、デザインコンペ等への応募、共同プロジェクトの運営など、横断的研究実践能力が必要とされる科目の履修または実践活動
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	プロジェクト演習、インターンシップ、大学を開くデザインプロデュース、TA 経験、チームでのコンテスト参加、学会での質問、セミナーでの質問など、研究組織運営能力が必要とされる科目の履修または実践活動
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	海外研修、感性情報学特講、建築・都市フィールドデザイン論特講など、国際性について学ぶ科目の履修または、国外での活動経験、留学生との交流、TOEFL/TOEIC 得点、国際会議発表、外国人との共同研究など
6. 構想・表現力: 課題抽出能力(目利き力)と計画立案能力	専門的な問題の周辺にも精通し、課題抽出能力を活かして研究・制作を立案し、表現する力を身に付けたか。	当該学位プログラムの全ての学生に対して履修することを指導するデザイン学基礎論学会・研究会・プロジェクト発表会等での成果を参考にする
7. 分析力: 広い視点から問題を解決する専門的問題分析力	専門分野における優れた研究を実施するための専門的問題分析力を身につけたか、広い分野から、総合的なデザイン課題を分析する力を身につけたか。	視覚情報デザイン論特講を含む専門科目の講義科目、特別演習 1, 2、学会等での発表成果を参考にする
8. 解決力: 専門性に裏付けられ、新しい解決策を生み出し、成果を社会や学術界に提案する力	インターンシップや実践的演習により問題解決力(任務完結力)・突破力(計画立案能力)を獲得したか。	当該学位プログラムの全ての学生が履修するデザイン学特別演習 1, 2 に加えて、プロジェクト演習 A~D、およびインターンシップ、プロジェクトの外部発表、インターンシップ先からの評価を参考にする

学位論文に係る評価の基準	
<p>筑波大学大学院学則で規定する課程を充足した上で、学際的な視点を持ちながら、デザイン学の課題に関する分析力、応用力および複合的問題の解決能力を評価する。評価対象は以下の a. b. のいずれかによるものとし、それぞれの基準に基づき学位論文審査委員会による最終試験で以下の各項目を満たすことが認められること。</p> <p>学位論文審査委員会は主査および副査 2 名以上から構成され、口述試験により審査する。</p>	
<p>a.論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザイン学に関する学際的な見識に基づく発想力や分析力、およびそれを社会に应用する能力が認められること。 2. デザインに関する専門知識と分析技術を有し、学際的な応用研究を推進する能力が認められること。 3. デザイン学の学識を基盤に、国内外の社会の現場でデザインやものづくりに応用する能力が認められること 	
<p>b.作品及び研究報告書 (作品)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題設定、制作方法、実現手段が明確で独創的であること。 2. 完成度が高く、当該領域の進展に寄与しうるものであること。 <p>(研究報告書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究内容に作品との関連性が認められること。 2. デザインに関する専門知識と分析技術を有し、学際的な制作を推進する能力が認められること。 3. デザイン学の学識を基盤に、国内外の社会の現場でデザインやものづくりに応用する能力として評価できること。 	
カリキュラム・ポリシー	
<p>デザイン学学位プログラムは、製品や企画、エンタテインメント、構成、建築、空間計画など、産業や社会にかかわる多様な課題をシステムとして捉えて研究・設計を遂行するために、専門的課題抽出力(目利き力)、専門分野と総合的方法論を合わせ広い視点から問題を計画立案する能力、任務完結力、論理的説得力、国際的なコミュニケーション能力と提案力を育てる。具体的には、構成学、感性科学、視覚心理学などを含むデザインの諸分野に加えて、システム情報工学、環境工学、生理学、人間工学、障害科学など、関連する分野の教員による分野横断的で実践的な学修課程を編成する。</p>	
教育課程の編成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎科目により、デザインの基礎理論から応用・実践にわたる知識や論理的思考力を身に付ける。 ・大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目により、学際的な知識と幅広い知識を身に付ける。 ・分野横断的な専門科目により、幅広いデザインの理論とその応用を支える研究開発方法を身に付ける。 ・プロジェクト演習により、デザインの実施に対応する課題抽出力、計画立案力、プレゼンテーション力を身に付ける。 ・インターンシップ等により、実践的な課題抽出力、計画立案力、説得力を身に付ける。 ・海外研修等により、デザイン、設計、企画を成功させるための国際交渉力とネットワーク構築力を身に付ける。 ・デザイン学特別演習により、総合的な計画立案力、任務完結力を身に付ける。
学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年次では、「研究計画届」を提出し、研究内容に応じた主指導教員と副指導教員を決定する。 ・基礎科目と隔年開講の専門科目に加えて大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目を履修する。 ・プロジェクト演習およびインターンシップ、海外研修を計画的に履修し、研究を深める。 ・2 年次では、隔年開講の専門科目、デザイン学特別演習により研究指導を受ける。 ・2 年次秋学期(12 月末)に修了研究(論文または作品(プロジェクト含む)及び報告書)を提出し、審査を受けるとともに、最終達成度審査を行う。
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年次の秋学期末に全研究指導教員による第 1 段階達成度審査を行い学修状況の審査を行う。 ・2 年次では、春学期末～秋学期前に第 2 段階達成度審査ならびに修了研究中間評価会を行う。 ・2 年次末に修了研究(論文または作品(プロジェクト含む))の公开发表会、主査、副査 2 名以上で構成される論文審査委員会による修了研究の審査を行うとともに、最終達成度審査を行う。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>地域や文化の壁を越えた問題解決策を提案する意欲および資質のある人材、常に新しい解決策を生み出すことに挑戦し、成果を生み出す粘り強さを身に付ける意欲のある人材を求める。</p>
入学者選抜方針	<p>選抜においては、デザインの表現技能に優れた者のみならず多様な研究教育分野からの応募が可能になるように専門領域に関する筆記試験と口述試験によって専門適性を評価する。さらに、英語外部検定(TOEIC、TOEFL、IELTS 等)のスコアおよび研究計画などの提出書類を元に研究基盤力を評価し、総合的に可否を判断する。</p>